

コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会(JCI-TC-133A)

第1回 WG1 議事録

日時：2013年10月3日(木) 10:00～12:00

場所：公益社団法人 日本コンクリート工学会 第5会議室

出席者(敬称略)

棚野委員長、濱崎幹事、古賀幹事、上野、渡邊、小林、中村
(事務局)渡部

配布資料

WG1-1-0 第1回全体 議事次第

WG1-1-1 第1回全体 議事録(案)

WG1-1-2 委員名簿

WG1-1-3 「コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会」検討概要メモ

WG1-1-4 「コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会」からの引継ぎ

WG1-1-5 JCI/TC133A WG1 活動計画について

WG1-1-6 JCI/TC133A WG2 谷口メモ

WG1-1-7 「コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会」抜粋

議事

1. 前回本委員会の確認【WG1-1-1】

濱崎幹事より配布資料 WG1-1-1 に基づき、前回本委員会の審議内容の確認が行われた。

2. 議事内容

2.1【WG1-1-3、WG1-1-7】

上野幹事より、配布資料 WG1-1-2 に基づき、コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会」での検討概要について説明が行われた後、審議を行った。

【意見・審議内容】

- ・本年度、WG1 で調査対象とする規格は JIS に無い試験方法規格（団体規格）を対象としてはどうか。
- ・ひずみゲージやロードセル単体の JIS は無く、データロガーとの組合せで使用する。耐圧試験機のようにシステム全体として検証法の JIS が存在する。
- ・鉄筋の付着試験は複数の団体規格が存在しているが、試験条件の違いなどを調査し直すのは意味がある。
- ・規格化（標準化）へ向けての課題を明確にすることは、研究委員会の目的として適している。
- ・フレッシュコンクリートの塩化物イオン濃度測定方法に関しては、評価認定を行う機関が無い状況である。
- ・JIS の解説には改正に至る経緯が全て記されている状況では無い。

2.2 【WG1-1-4、WG1-1-7】

濱崎幹事より、配布資料 WG1-1-4 に基づき、コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解
釈研究委員会」からの引継ぎについて説明が行われた後、意見交換を行った。

【意見・審議内容】

- ・ダブルスタンダードになっている例がある。
- 練混ぜ水のように JISA5308 と土木学会で内容が異なる。
- ・骨材の絶乾密度と吸水率は両方必要であろうか？
- ・道路用砕石とコンクリート用砕石のように同種のものが存在する。
- ・土木学会の標準示方書通りに土木構造物が作られている訳ではない。
- ・建築では JASS5 が先進的な技術として位置づけされている。
- ・ゼネコンでは社内仕様を作成している。

2.3 WG1 の活動計画について 【WG1-1-5、WG1-1-6】

濱崎幹事より、配布資料 WG1-1-5、WG1-1-6 に基づき、WG1 の調査方針について説明が行われ
た後、意見交換を行った。

【意見・審議内容】

- ・性能規定に移行しつつある中で出来形に関する試験方法が少ない。
- ・強度以外に確認する方法が無い。
- ・測定方法と評価方法に関しては分ける方がいいのではないか。（例：反発硬度）
- 反発硬度に関しては測定法と反発硬度を求めることは JIS にも規定されており、誰もが合意で
きる内容である。しかし推定式に関しては複数存在し、その精度にも問題があるので、選定の
際に容易に合意には至らないであろう。
- 評価方法に関する JIS は減りつつある傾向にある。
- ・線膨張係数など試験方法が無いものを標準化提案するのはどうか。
- ・材料の品質規格は土木学会基準ができてから JIS 化が進められていることが多い。
- ・WG1 の活動としては JIS を作成するわけでは無い。過去に JIS の改訂が行われた内容（方法、
種類、品質値）について明確にする。
- ・JIS を考える上で（品質を決める上で）の確認事項は何かを検討する。

【結論】

本日の意見を踏まえ下記の 2 項目について、次回の WG までに各委員メモを作成する。

- ・標準化が望まれる試験方法について
- ・前回委員会の積み残し事項について

5. 次回委員会について

次回 WG については、下記日時にて開催予定となった。

開催日：平成 25 年 11 月 25（水）10～12 時

以上